

第 113 回講習会「科学英語によるプレゼンテーションの実践」

企画 東海支部
共催 精密工学会東海支部
協賛 自動車技術会中部支部, 計測自動制御学会中部支部, 日本塑性加工学会東海支部, 日本設計工学会東海支部, (財)名古屋市工業技術振興協会, 愛知工研協会
開催日 2010年10月29日(金)
会場 名古屋工業大学 講堂会議室(名古屋市昭和区御器所町)
交通アクセスは <http://www.nitech.ac.jp/access/index.html> をご覧下さい。
締切 2010年10月20日(水)
定員 100名

趣旨 情報化・国際化が進む現在、グローバルな技術競争が進展している企業環境の中では、英語によるコミュニケーションの機会が増えており、技術者にとって科学英語の表現能力向上がますます必要となっています。第 112 回講習会に引き続き科学英語による実践的なプレゼンテーション力の向上および英文メールによるコミュニケーション力の向上にも重点を置いた内容で講習会を開催します。

内容

13:00~13:05 開会の挨拶

13:05~14:05 講演スライドの作り方(講演日本語)

遠藤 守 (中京大学)

科学技術の講演において最も効果を発揮するスライドの作り方を説明します。1枚の講演スライドは、図と式と文章から1分間程度で聴衆に内容を理解してもらわなければなりません。そのためには、図の描き方や簡潔な英文の書き方、それらのスライド中への配置方法などについて工夫が必要です。これらに関する一定のルールについて解説します。

14:15~15:45 科学講演における効果的な英文表現(講演英語／質疑日本語可)

エドワード・ヘイグ (名古屋大学)

英語で効果的な科学技術の講演を行う時の実際の表現をストーリー的に紹介します。(今年7月に行われた)第 112 回講習会では、講演に臨むときの「心構え」を中心にして解説しましたが、ここではより実践的なテクニックに焦点をあてて講演します。Title / Outline/Modeling / Theory / Theoretical results / Experimental Setup / Experimental results / Conclusions / Acknowledgement

と進むスライドを用いて、適切で役に立つ、様々な表現を紹介します。これらのスライドは、聴講者が初めて国際会議で講演するとき、中身を自分用に置き換えていけば、最低限の英語表現が完成できるようになっています。

16:05～17:05 E-mailによる効果的なコミュニケーション(講演質疑とも英語)

スティーブン・E・クアシャ (相山女学園大学)

理系の学生、技術者が Email 作成において最低限知っておくべきことを紹介します。論文を投稿、あるいは学会など行事に参加しようとする際のやりとりを事例として、Email により連絡するときの注意点を解説します。また、Email を毎日、何百通と受け取るような忙しい人にもすぐに内容を理解してもらうには、簡潔かつ単純な英文を書くことが必須ですが、そのためのテクニック、ルール・エチケットについても説明します。

17:05～17:10 閉会の挨拶

参加費

〈教材費込み〉会員 5000 円(6000 円)、会員外 8000 円(9000 円)、
学生員 3000 円(4000 円)、一般学生 4000 円(5000 円)

〈教材を各自購入〉会員 3000(4000 円)、会員外 6000 円(7000 円)、
学生員 1000 円(2000 円)、一般学生 2000 円(3000 円)

(かっこ内は当日支払いの場合)

問合せ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町／名古屋大学工学部機械工学教室内
日本機械学会東海支部

電話・FAX (052)789-4494、E-mail: tokaim@nuem.nagoya-u.ac.jp

申込方法

右記 Web サイトからお申込下さい。(http://www.jsme.or.jp/tk/)